



2006.1.1

vol.22



NEHINOMIYA
WATANABE
HOSPITAL

特別医療法人高明会
西宮渡辺病院

〒662-0863 西宮市室川町10番22号

TEL:0798(74)2630 FAX:0798(74)7257

ホームページ <http://cvnweb.bai.ne.jp/~nw-hosp/>



迎春

院長 渡邊 高

平成17年は、前年10月に起こった新潟・中越大地震の余波で、地域病院の災害医療のあり方が提起されるとともに、阪神淡路大震災10年目の節目を迎えて幕が開きました。

昨年末、耐震強度偽装問題が世間を騒がせましたが、昭和の末期、地域医療圏が定められ役割分担が行われる中、当院は病院の近代化改築に着手しました。

設計図が描かれる前、ボーリング地質検査結果から基礎杭打ち30%増が提案されましたが、実行には破格の金額を要するとのことでした。しかし当院は、災害時の病院機能の喪失、患者さまと職員の安全などを鑑み、耐震性に最大限配慮した病院を建築しました。そしてこれにより、マグニチュード7.3という古今未曾有の大震災を受け、周辺の高層住宅が倒壊し、阪急電車の高架線も落ちた当地にあっても私共の病院は倒壊を免れ、災害・救急活動を行い続け、地域の皆さまに医療を提供することができました。

このように私共の病院は、新しい病院・新しい医療を目指して改革を行い、設備をととのえ歩んでまいりました。



長く暗かった不況のトンネルに、ようやく灯りが見えるようになる中で、平成18年という新年を迎えましたが、本年当院は、池田町に循環器に特化した新病院ならびに、都市型の介護老人保健施設を開設します。

本格的な高齢・少子化社会が進む中、当院、グループホームむろかわ、そして新施設により、救急医療・疾病治療はもとより、地域の皆さまが老後も安心して快適な社会生活を送られるお手伝いをさせて頂けるものと自負しております。

そして本年は、以下のような病院像を構築できるように、スタッフが皆で手をつないで、チーム医療を展開していきたいと想います。

普段着・普段の履物でまたげる、敷居の低い、未来に向けて健康的で明るい病院

どんな悩みでも、いつでも相談できる病院

満足・安心な医療が提供

できる、地域密着の病院



クリスマス

ロビーコンサートを行いました

昨年12月17日、第27回ロビーコンサートを開催しました。

今回は、クリスマスシーズンということもあり、西宮聖愛教会の聖歌隊の皆さまによる、クリスマス賛歌やきよしこの夜などが、披露されました。



入院患者さまや外来患者さまをはじめ、グループホームむろかわの入居者さまや職員が多数集まる中、皆で合唱する場面もあるなど、ひと時クリスマスムードを楽しみました。



物忘れ外来 物忘れ教室
はじめます

平均寿命が男性78.36歳、女性85.33歳という超高齢化社会に日本は突入していますが、そのような中、加齢による物忘れでお悩みの方も増加しています。

そこで当院では、本年1月11日より、物忘れ外来・物忘れ教室をはじめます。

新しいことが覚えられない、カギや財布を置いた場所が思い出せない、人の名前が思い出せない、今しようとしていたことが思い出せない、昨日のことが思い出せないなどの経験がある方、また心配がある方は、どうぞお気軽に1階事務所までお問い合わせください。





**新年あけましておめでとうございます
本年もどうぞよろしくお願いたします**



医局 佐々木 健陽

昨年は小泉内閣解散・総選挙と政局が大きな変動を見せ、年末には連続して幼い女兒が殺害されるという痛ましい事件や、耐震データ偽造問題が世間を騒がせましたが、皆さんはどのような一年を過ごされたでしょうか？



当院では、昨年2月に内科の中田医師の着任、7月には整形外科仁田医師の後任として田中医師の着任がありました。また新たな専門外来として、脊椎外来や、大阪市立大学医学部整形外科関節グループの協力を得て関節外来をはじめています。

医療を取り巻く環境はどんどん変化を見せ、医療機器・医療技術もどんどん進歩しています。本年4月には医療保険改正と介護保険改正が同時に行われますが、そのような中当院は、春に新病院と老健施設を設立します。

本院ともども、一層医療に邁進しながら医療の進歩を地域の皆さまにできる限り伝え、皆さまが健康で楽しい人生を送っていくための貢献をしていきたいと考えます。

看護部

看護部長 岡澤 恵子



『学するものは日に日に益し、道するものは日に日に損す。損して損して無為となす。無為にしてなさざるはなし』

老子の言葉であります。私たちも学び続け知性と教養を磨き、看護の原点に戻り技術に裏づけられたやさしさを求めていきたいと思ひます。そして地域の皆様に喜んで頂ける看護サービスを提供したいと考えています。

本年もどうぞよろしくお願いたします。

外来主任 原島 由美

外来で過ごされる時間のうち、苦痛に感じることの多い待ち時間を短縮できるように、スタッフ全体で取り組んでいきたいと考えています。お気づきの点などあれば、いつでもお申し出ください。患者さまからの貴重なご意見を大切にしていきたいと思ひます。

2病棟師長 諸根 康

急性期治療が一段落され入棟される患者さまが、安全で安心な療養生活が送れますようお世話させていただきます。また、『住み慣れた我が家に帰りたい』という患者さまの意思を尊重して、患者さまやご家族さまが困らないよう、病棟から地域へと連携を充実させ、シームレスケアを目指していきたく思ひます。



4病棟主任 植田 朝子

私たち4病棟看護師は、それぞれが学習を深める事によるスキルアップを目指し、プライマリー看護の充実をはかっていきたいと思ひます。

5病棟師長 堀田 礼子

私たちを取り巻く社会環境はめまぐるしく変化していますが、『今何をすべきか、求められていることは何か』を常に考え、環境変化に気づき対応できる看護を目指して今年も頑張ります。よろしくお願いたします。

6病棟主任 池田 佳奈美

6病棟は、元気で明るいをモットーに、患者さまが不安なく治療に専念できる環境作りに努め、励まし支えながら、患者さまの1日も早い社会復帰のお手伝いをしていきたいと思ひます。

ICU師長 田中 ひとみ

地域の医療機関との連携を推進し、迅速かつ質の高い救急医療と、患者さまや家族さまが納得のいく看護を提供していきたいと思ひます。

臨床検査室 林 安行



昨年は、血管超音波検査の役割が著しく高くなった一年で、頸動脈だけにかかわらず、下肢動脈の狭窄や閉塞の評価、深部静脈血栓・下肢静脈瘤の評価にと高度な技術や知識が必要になりましたが、スタッフそれぞれが積極的に研修会・勉強会に参加し、また伝達し、全体のレベルが向上しました。

検体検査部門ではBNPを院内実施項目にし、心不全の指標として早期リハ・早期退院の指標に有用でした。またRTP(プレアルブミン・トランスフェリン・レチノール結合蛋白)の測定も開始しNST(栄養サポートチーム)への協力も行いました。

今年も迅速正確な院内検査室として、地域救急医療に貢献していきたいと思ひます。

訪問看護ステーションむろかわ

松原 照美



訪問看護ステーションを開設し、今年で7年目となります。

病院や関連施設との連携、地域の方への情報発信等、訪問看護師である私達の役割がますます重大となってきた事を実感しています。

健康維持の観点から、介護指導・健康指導を一層充実させていき、利用者さまやご家族さまが安心して在宅療養を継続していただけるよう、さらなる努力をしていきたいと思ひます。

また昨年末、利用者さまを対象に行わせていただきました介護サービス利用者満足度調査で頂戴した貴重な感想やご意見も、今後の業務に活かしていきたいと思ひます。



各部署より、
新年のご挨拶を申し上げます



放射線科 和氣 利充

昨年新しい装置 FCR・マルチ CT (16 列) が導入され非常に忙しい年でした。

装置にも慣れた今年は、装置の機能を活かした的確な検査を行い、より診断しやすい画像を提供していきたいと考えています。

また乳房撮影装置では、臨床検査による乳腺エコー検査と併せて、乳ガンの早期発見に尽力していきたいと考えます。

さらに本年は、春開設予定の循環器専門病院設立に向けて、放射線科一同循環器撮影のレベルを高め、新たな放射線科づくりを目指していきます。



栄養課 松下 藍子

2006年を迎えて本年の栄養課の抱負は、個々の患者さまに対応した栄養管理を行うよう努めていくことです。

フードサービス部門では、NST(栄養サポートチーム)で適切な栄養量・濃厚流動食を医師とともに検討し、すすめていきたいと思っています。

クリニカルサービス部門(栄養指導)では、人間栄養学を基本とし、入院・外来とも生活習慣病を中心に、きめ細やかな栄養指導の充実をはかりたいと思っています。



グループホームむろかわ

岡田 實

早いもので、開所2年が過ぎました。同じ高明会グループの西宮渡辺病院が隣接していることもあり、24時間医療対応や週3回のトレーナーによる集団体操、訪問看護師による訪問看護など、入居者さまの健康管理につとめ、安心して生活していただいています。また年間行事も増え、入居者さまに楽しんでいただいています。

入居者の方々からのお話や生活の知恵などは、スタッフが学ばされることも多く、今年も人生の先輩方のお世話ができることを喜びとしながら、笑顔をもってスタッフ一同頑張ります。



居宅介護支援センターむろかわ

吉川 光江

介護保険制度は、今春で7年目を迎え、昨年10月からは、介護保険施設での居住費と食費、及びデイサ - ビスでの食費の利用者負担が始まりました。また今春からは、新予防給付が開始されることになっています。

要支援や要介護1の、比較的介護度の軽い高齢の方々にとってはいろいろ不安もあるかと思いますが、過剰なサ - ビスになっていないかを問いかける機会だと考えています。できない部分を補う目的だった今までのサ - ビスから、できる部分をより伸ばしていくためのサ - ビスであることを理解して頂き、十分話し合っていきたいと思っています。

立ち上がりが困難だったHさんに対して、昇降器付き便座を導入して奥様の介護負担が軽減したことや、重度認知症の奥様の介護を一人で10年近く介護してきたご主人が、やっとデイサ - ビスの利用に踏み切られたケ - スなど、サ - ビスの効果がより発揮できた時は、大変うれしく思います。

今年も十分なアセスメントと迅速な対応を心がけ、努力してまいります。



薬剤部 仁田 友香子

高度先進医療の発展がめざましい中、薬剤師も医療の役割をより一層明確にし、内容を充実させ、質の向上を図っていかねばならないと考えます。

昨年前半は専門教育に力を入れ、特殊治療の混注業務(正確かつ衛生的な薬剤投与を行なうため、薬剤師が調剤の一環として注射薬の無菌操作を行なうこと)に重点を置いてきました。これにより、積極的にチーム医療に参画できたのではないかと思います。後半については、マンパワー不足により、医局をはじめ、看護部など多くの部署の支援を得て、頑張ることができました。

新年を迎え、新しいメンバーを迎え、説得力のある業務を構築し、個々の知識向上・全体のスキルアップを実現していきたいと思っています。



リハビリテーション科 塩田 智之

本年のリハビリテーション科は、患者さまとご家族さまに対して、わかりやすいリハビリテーションを展開していきたいと考えています。

わかりやすいリハビリテーションとは、『今どういう状況で』『どういうリハビリを行っている』『今後どうしていくのか』などの対話を行いながら、リハビリをすすめていくということです。当たり前のことですが、もう一度これらのことを念頭に、患者さま・ご家族さまと接し、その中から安心感を得ていただき、気持ちよくリハビリを受けていただきたいと考えています。

そしてこれらを実行していくためには、これまで以上に患者さまを中心としたチーム医療に心がけていかなくてはならないと考えています。

今年もリハビリテーション科をよろしく願いいたします。



新施設のご案内

特別医療法人高明会は、春のオープンに向けて西宮市池田町に、循環器治療に専門性を置いた新病院を建設しています。

新病院は、最新の設備とシステムを持っており、そこでは時間との戦いである虚血性心疾患をはじめとした循環器疾患に対して、先進的・集約的な医療を提供していきたいと考えています。

また新病院は、介護老人保健施設と42条施設を併設しています。

今回、それらについて簡単にご案内させていただきます。



介護老人保健施設（老健）

建設中の介護老人保健施設は、入所予定50名、小規模・都市型施設です。

小規模という特性を活かし、『脳リハビリテーション』『パワーリハビリテーション』を取り入れ、利用者さま一人一人に合った、個別性のあるサービス提供を目標にしています。

当施設では、入所・短期入所（ショート）・通所（デイ）の3通りのサービスがあり、利用者さま・ご家族さまの希望で、必要なサービスをご利用いただけます。

ご利用にあたっては、介護認定を受けることが必要です。

介護認定のこと、施設利用の申し込み、お問い合わせは下記にて受け付けておりますので、お気軽にご相談ください。

【介護老人保健施設開設準備室】
0798-32-5390（担当：杉山）



42条施設（メディカルフィットネス）

42条施設とは、疾病予防という予防医学の観点からスポーツの活用を考えた施設で、そこでは生活習慣病にかかっている方や血圧の高い方、高齢者、その他様々な疾病予防の必要性が高い方を対象に、有酸素運動を行う場を提供したり、体操教室などを開催していく予定です。

病院が附置されている施設ですので、事前に各種の健康診断をもとに医師がメディカルチェックを行い、参加される方一人一人に最も適した運動処方箋を発行させていただきます。

地域の皆さまが病気になるらずに、また病気を悪化させずに、健康に働き活動できる

明るい生活環境作りのお手伝いをさせていただきたいと考えていますので、ご興味を持たれた方はお気軽に、1階事務所、もしくはリハビリテーション科までお問い合わせください。



★ 看護部 症例発表会を行いました ★

平成17年12月10日、平成17年度看護部症例発表会が、71名という多数が参加する中、下記プログラムで行われました。

各部署共通テーマを、『リスクマネジメント』とし、日々の業務に潜在するリスクに注目して様々な角度から研究し、その成果を発表しました。

発表会を経て、『どうすれば患者さまに、より安心して快適な看護を提供することができるか』ということを再考することができました。

当院看護部では、今後も患者さまにより高いレベルの看護が提供できるよう、学習・討論・実践を重ね、看護のレベルアップを目指していきます。

<外来>	待ち時間問題を考える
<ICU>	ICUで発生したアクシデントレポートの実態調査による要因分析と身体拘束スコアの有効性について
<2病棟>	転倒・転落防止用具の使用基準を考える
<4病棟>	臨床医療事故の実態とその対処法
<5病棟>	転倒・転落アセスメントスコアシート実態調査
<6病棟>	転倒状況のリスクマネジメント
<手術室>	術中体位の効果的な除圧方法の検討を試みて
<訪問看護>	在宅での口腔ケアの実態調査 ～誤嚥性肺炎の予防について～



むろかわNewsに対する皆様よりのご意見・ご感想をお待ちしております。

当院各階詰所・1F出入口に設置しております「ご意見箱」をご利用ください。